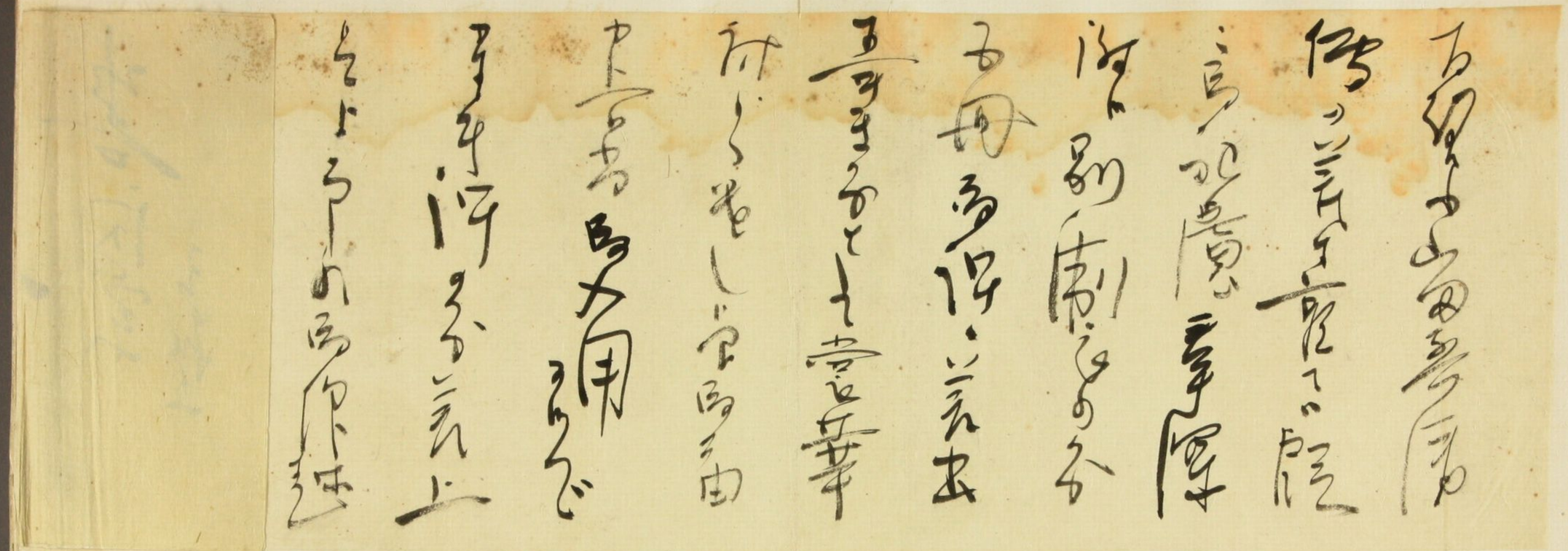
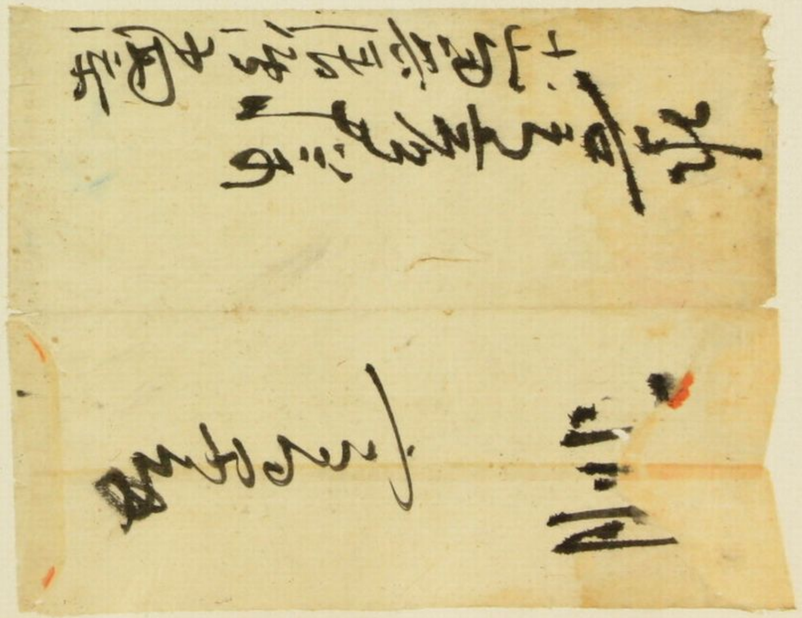
稲葉帖

特別
チ6
3929

門 子6
號 3929
卷

昭和三十二年
一月十九日
購求





此度伝は紀伊雄弟が高田先生の委嘱に由り小山田與清伝を編輯せし時、予頼まれて之を版を日本橋丸善石川堂に寄せ、当時図書録発行の「偉人史義」中の一編として刊行されたり高田先生は其附録伝信の物数本立部に出書を添えて贈られし、因に堂衣の北斎は仙元にて著名の書録なりしが主書地長作元恢なる人にて東京に出版を図り、「偉人史義」、「日本医学史」等の大著を出版しなり

予記

[illegible]

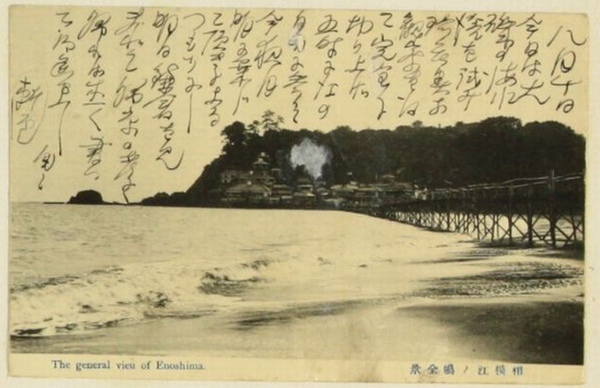
此手紙は紀淑雄君が高田先生の
委嘱に由り小山田與清傳を編輯
せし時、予頼まれて之が出版を
日本橋區本石町嵩山房小林に紹介
し、当時同書肆発行の「偉人
史叢」中の一編として刊行されたり
高田先生は其謝禮として「與清傳」の
特製本五部に此書を添えて
贈られし也。因に嵩山房小林氏は
仙台にて著名の書肆なりしが
当主書肆亀作氏も気概ある人
にて東京に出版を開き、「偉人
史叢」、「日本医学史」等の大著
を出版しきたり

予 記

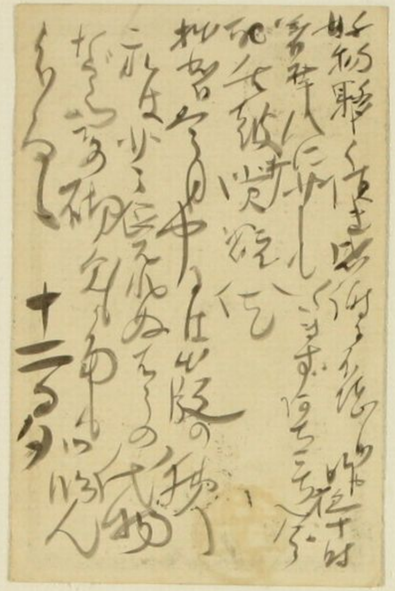
[illegible]

VIEW OF NAGASHIMA

箱根湯本



二水は市が「趣味」を函舞せ[illegible]坪内先生[illegible]
菅田軒雲子を推薦せ[illegible]時のもの[illegible]快て
第報探偵[illegible]軒雲子の文が「趣味」の紙上を
飾り[illegible]葉書は子が其日くの
報道より軒雲子は早[illegible]文出の秀才にして[illegible]
暢達の文者、筆を下せば千言立ところになる
其文り[illegible]の如く淡く[illegible]て情[illegible]



予大阪へ赴き[illegible]翌年[illegible]坪内先生へ松茸[illegible]を
さ[illegible]上し[illegible]が其頃運輸の便ゆるく籠で送れば
過半途中で失せるので箱に詰め小包郵便で送
り[illegible]所日数かゝりて腐敗せるより年々工夫[illegible]て
送るうちに三年ぶりでもどうやらこうやら無事に届く
やうにあれり二水は明治三十七年[illegible]の葉書に
最早大丈夫とあり[illegible]

これは小生〳〵が早稲田に
在学中一同窓の友の間に
「早稲田叢誌」と云ふ回覧雑
誌を発行したることあり
或時紀淑雄君の老ひ着
にて早稲田八景の口絵
を附せり此絵はその内の
四景を示すが保存せし
筆者は知らず明治三十六七
年頃の写生画なり

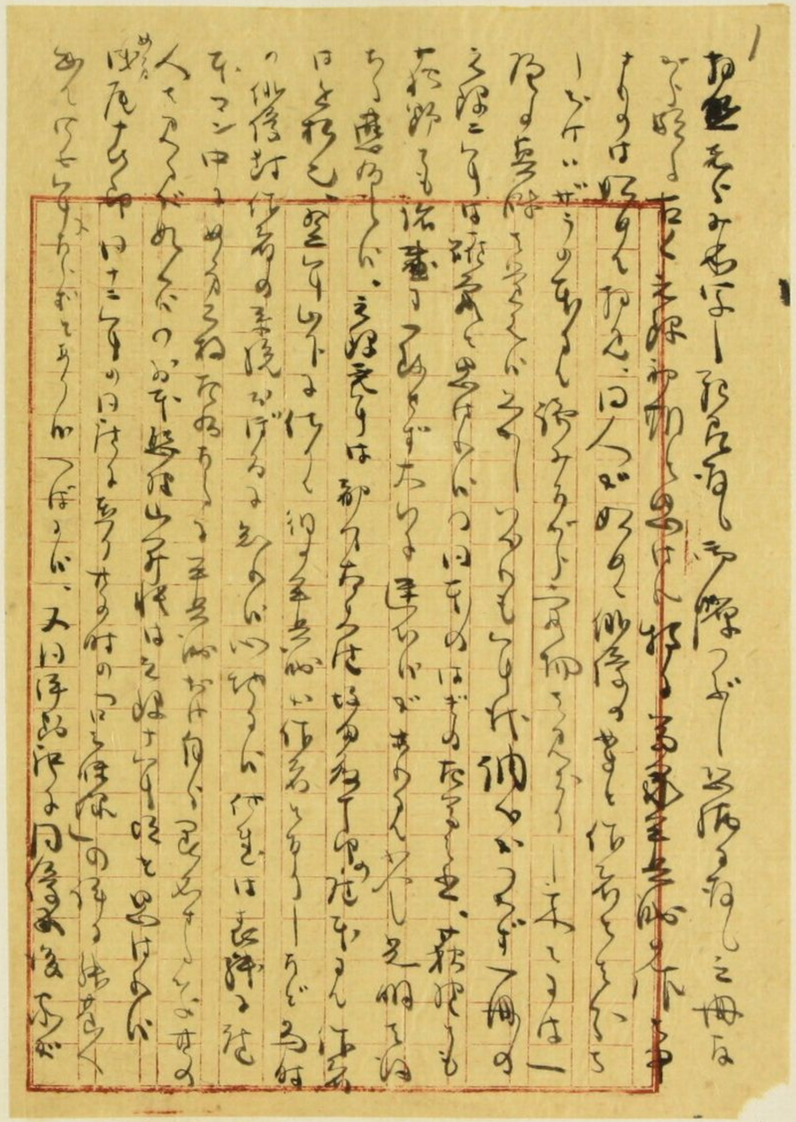
一青森ノ新聞ニ
載セ特ニ表文
肖像ノアルヿヲ
（精神第五十二号）
啓上スル
一来月ヨリ物価
高騰シ殊ニ茶
ハイ煙草等モ
倍加利用スル
如ク物価騰貴
ヨリ生ル
ヿ

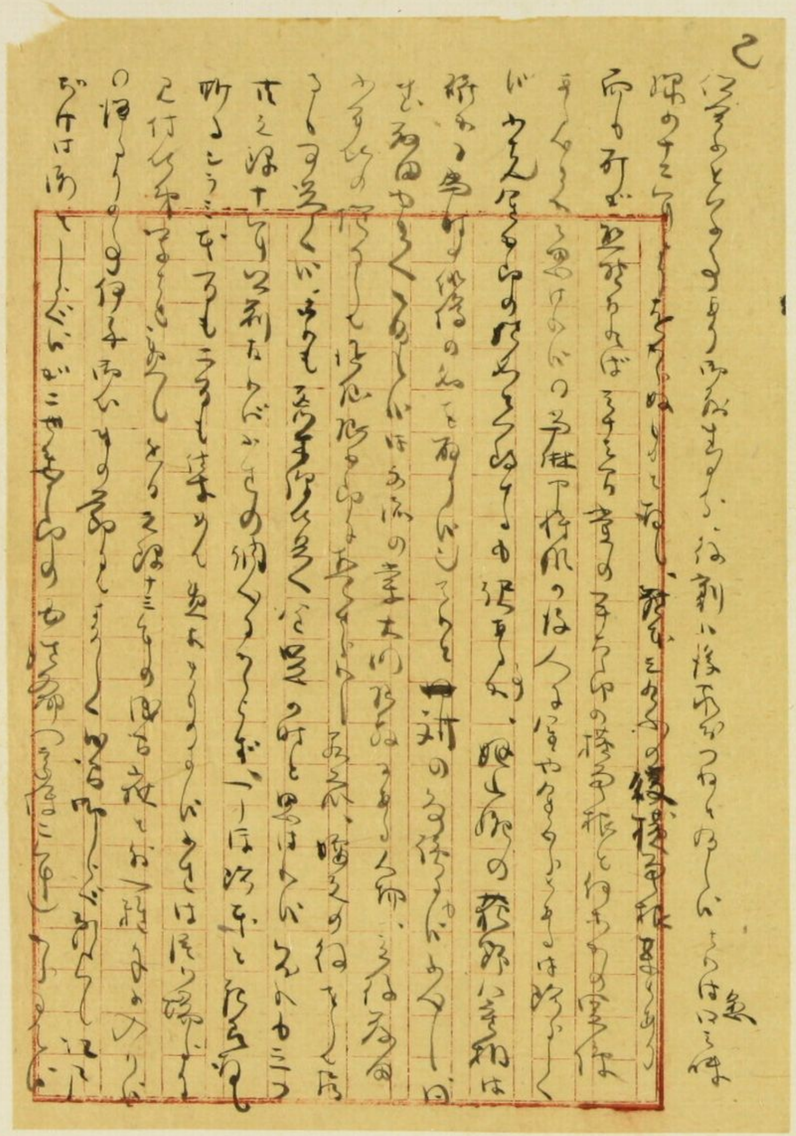
敬白

明治十八年十一月廿八日　岩倉具視

此一文は早稲田には全く
縁故なきものなれど次の
大久保開拓の書簡中に
あろ近衛公に関係より
尚時篤麿公より精神社
寄せられたるものなれば
収載しそう

近衛忠煕米年之肖像
近衛篤麿撮影



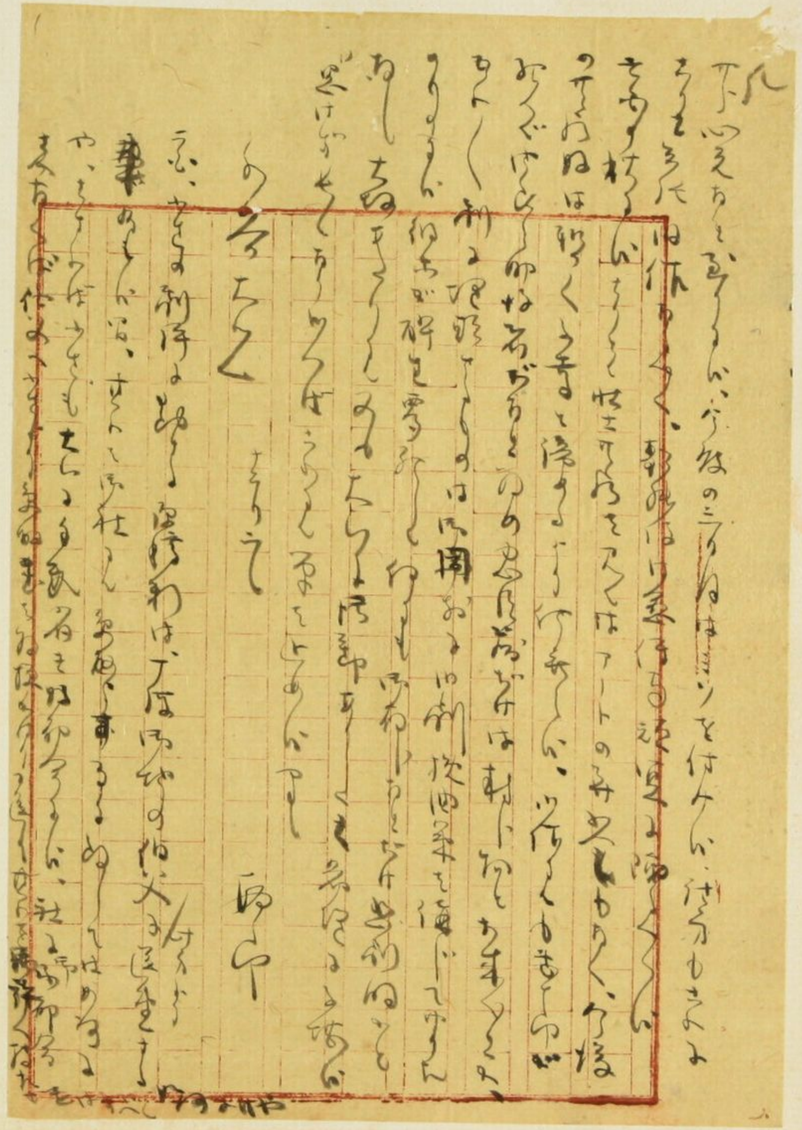


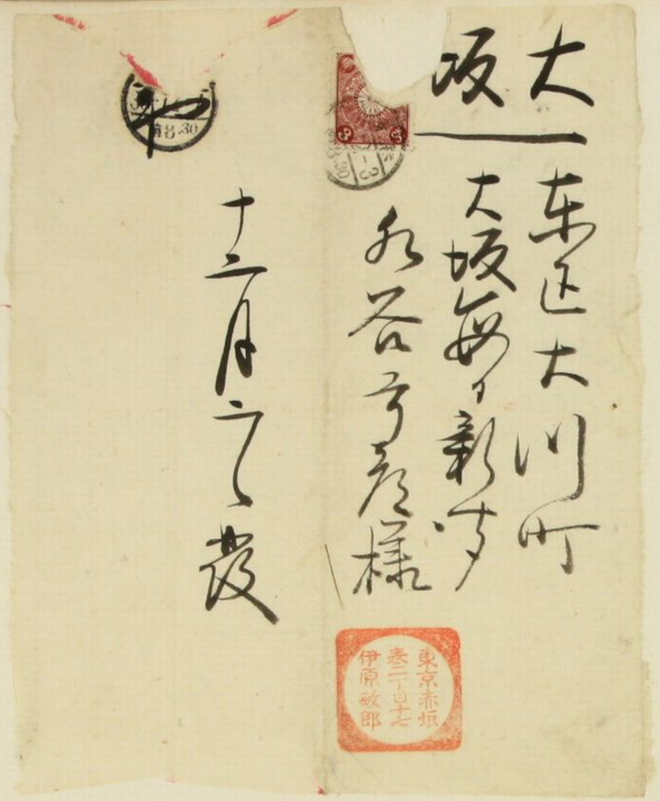
3

の文章にして大[illegible]書画につきて[illegible]同流のおもむきは[illegible]西[illegible]に従
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]一冊物の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の文[illegible]
[illegible]書画[illegible]
[illegible]
[illegible]大石の[illegible]
[illegible]

4

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]




大阪
東京赤坂
表二丁目七
伊原敬郎

○はがき　校友諸君へ――くさ伝言をそふ

時候のち何ひも変ものですから前略と致します
過日はち通書を頂いてなつかしく感じました、知
己友人からの音信は全に雨つて何とも云へぬ快味の情に堪へま
せん

帝都は此書ち掲ずの頃は最早櫻花も散り果て、
万紫の艶かしい色をち眺めるかと思います、当地い今
恰度桜の花ざかり、日本の櫻ほど多くい無いが奇麗ふ
ことはそれに劣りません、荒れさびれた蜀の郡さも此様な
愛らしいのが咲くのは不思議ふ位です　一つ二つ花瓣を封入して墨書きにたゝえば
い事です

諸葛孔明を祀つた廟武侯祠は南門外十四町程の所、あつて
此処に昭烈皇帝の陵があります、散策に適した場所で
清潔閑静ですから度々行つてみます、むかし孔明の
用いたといふ鐘鼓もあり、いろ〳〵ち紀念的の品があるやうで
す、其の他の場所も旧皇城だの、銅里橋唐史上の遺蹟――三
国志時代のもの――澤山あつてそれに就ての趣味は頗
る豊富な土地です

当地も追々文明の空氣が浸潤して既に一部に電
燈の光まばゆく輝いて居る位です、が又其の反対に正
性節を守る実地で見るやうな古習や日々の事物が尠か
らず存在を保ちて居ります、即ち現今が最も激し
い過去の潮流と戦はれて居る時と考へられます
雲南の方は佛領安南から滇車が通じて日々まで約二十
日で達するさうですが当月頃から当地い何時交通が便利ふ
るやら未定です、恰度山の中から採取される位ですから
生活も不自由は少いが生業が容易には交通機関の不
完全が最大の苦痛です、峽江の詩趣も十月も二十日
も濁流を傳うて居ては ツマラヌものとしか考へられません、
何卒一日も珍らしい情通信を乞ります

敬白、報告はいろ〳〵来ますが早いのが四十一番位
遅い時は六十番もかゝります

四月二日認

不倒翁　老兄　侍史

古城生　拝

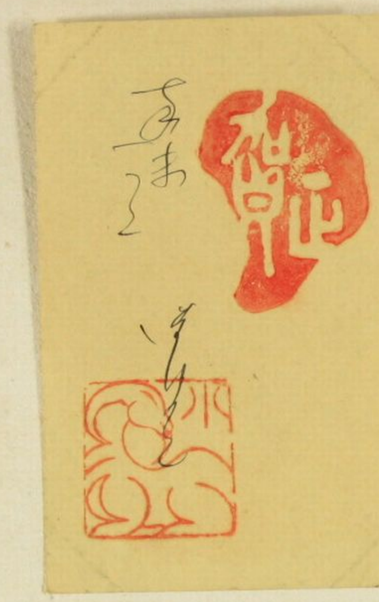
大鳥居古城

古城は彦根の人、通稱弁三、大久保湖州の紹介にて始めて知る。明治廿三年早稻田文學科を卒業して支那に聘せられ、成都に赴き、四川高等學堂に教鞭を執ること數年。此書翰、其当時市に在へしものゝ。久く筐底に存せしを去夏たまゝ之を拔き見るに、内より西棠の花二輪出、素が枯れ果て前年の色香を失ひ、又其主も今ゝ亡き人の數に入り[illegible]を思へば、実に感慨無量なり、即ち一首

亡き人を偶ひてひらく函書の
内より出いつる西棠の花
西棠の花とゝいへと名もなし
唯水草の跡をのこして　武

飯朝後　古城は日清印刷會社に入り重用せられしが中産病を得て不起。年齢等色々。人品好く才気あり、將来有為の人なりしに惜むべし。演藝を好み、嘗て坪内邸にて義太夫を語りしことあり、上手にあらねど彈語りをする程なれば、可なり名の人た道樂と謂ふべし。文藝協會初演の時、「孤城の落月」に石川伊豆に扮して將評を博す。長刀を横へ、花道の出、今も印象に残れり

三年より二十年の後　高橋記



坪内先生の年賀状
たぶん昭和六年

恭賀新年

明治三十六年一月一日
東京牛込區大久保余丁町
坪内雄藏

金子
春曙合作

常聞

右 東儀鐵笛
左 畠山慎吾

文藝協會創立前の試演

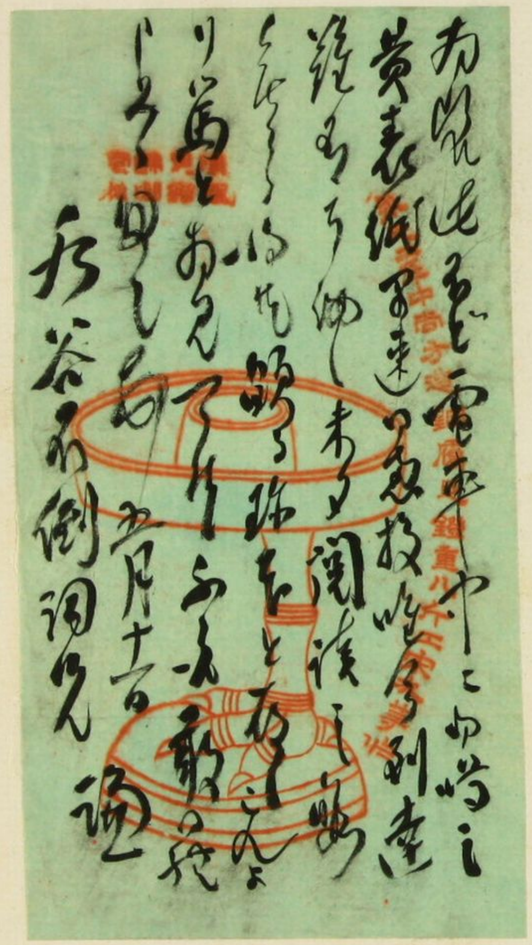
Gruss aus Berlin
Siegesallee

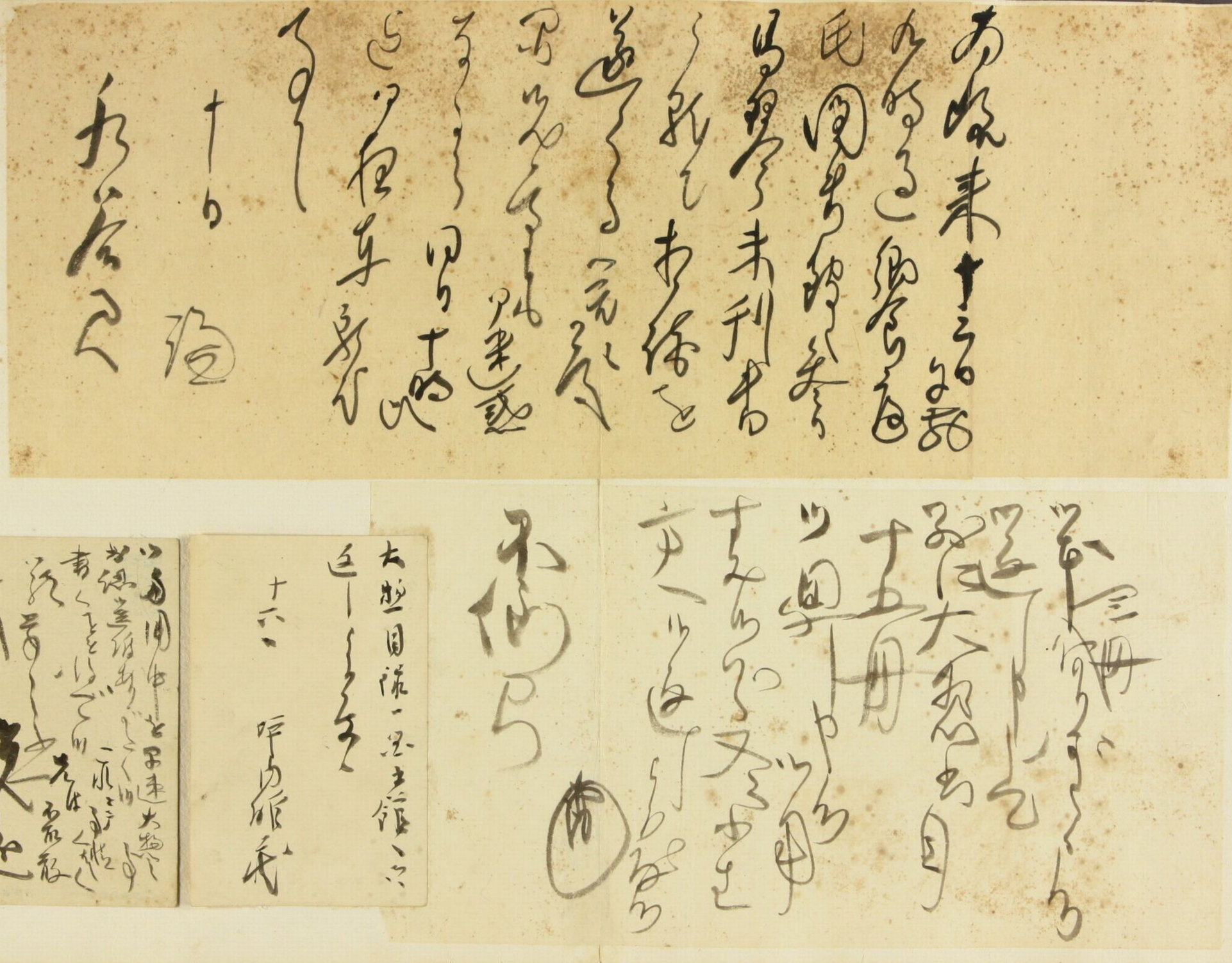
金子
島村合作

POST CARD.
Mr. Mizudani
Osaka
Japan

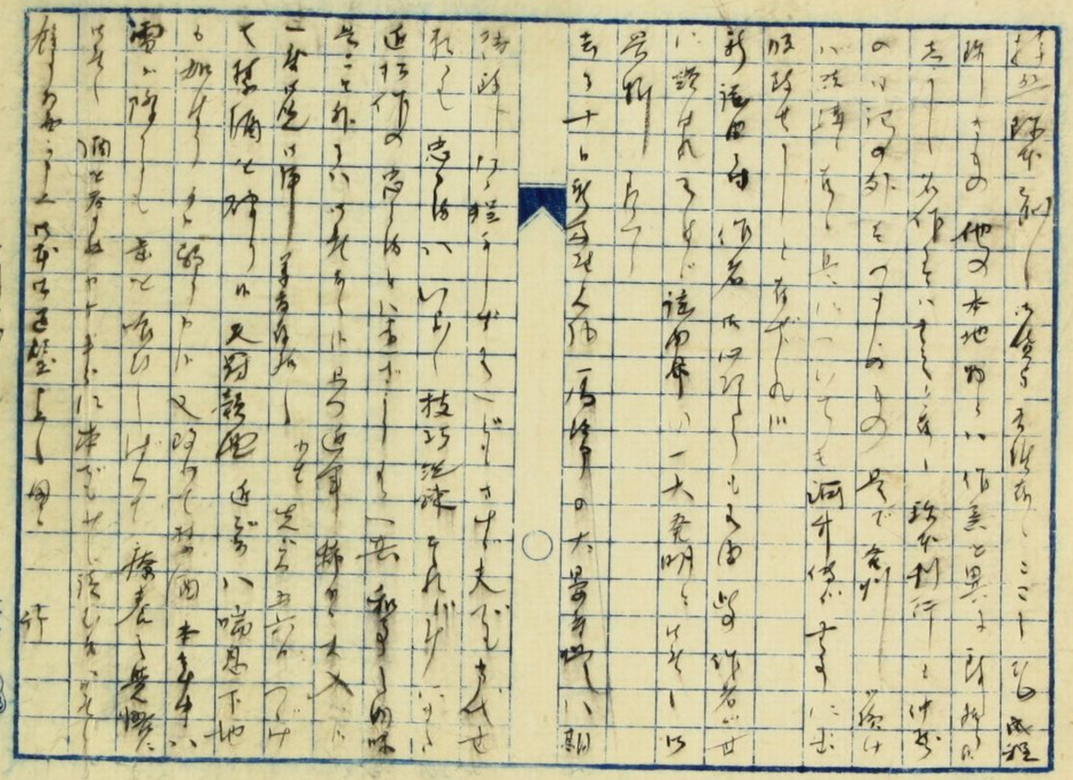
十月十日

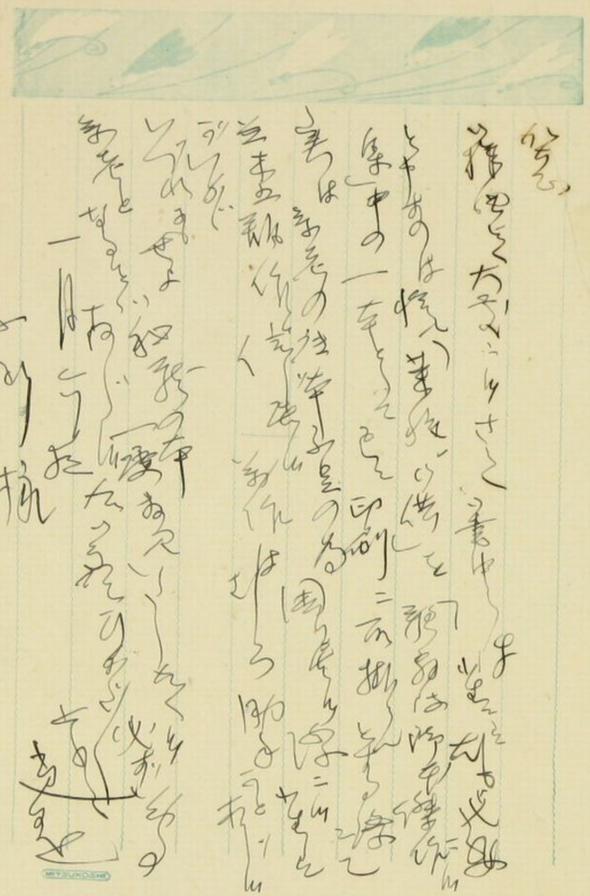
[illegible]

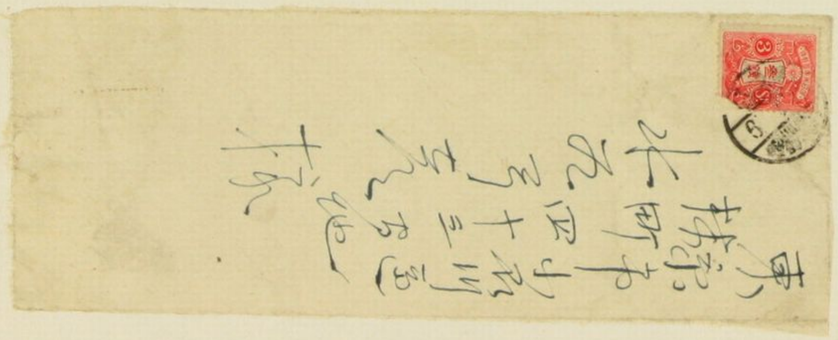




大正三年







ISSEIDO
96268